

エコキャップ運動 テキスト 5

エコキャップ運動とポリオの撲滅



NPO法人
エコキャップ推進協会

エコキャップ運動テキスト目次

* エコキャップ運動とポリオの撲滅 *

「やればできる！」ポリオ撲滅について 2～8

ブータン王国 ブータンヘルス信託基金へ寄付 10

「やればできる！」

WHOの発表のようにポリオは紛争地域を除いて、ほぼ撲滅しました。
完全撲滅するには、世界平和が必要です。

日本国内では、ポリオは撲滅できているのですが1980年以降ワクチン接種におけるポリオ発生での麻痺事例があります。

我々はワクチンが必ずしも万能でなく、接種される子供によって麻痺等の副反応のリスクがあることを知らなくてははいけません。

この運動が広まるにつれて、各県の県知事にお会いする機会が多くなりました。
そのときによく言われたのは「子宮頸がんのワクチンに寄付していただきたいとの」
要望です。

東日本大震災の発生後、テレビの企業CMの自粛もあり、ACジャパンによる「子宮頸がんワクチンのPRが多く流れたことを記憶されていた方も多いと思います。

しかしながら子宮頸がんのワクチンも副反応による健康被害事例が多く、苦しんでいる女性は多いのです。

どんな投薬もワクチンもリスクを抱えていることを私たちは知る必要があります。
1985年当時、350,000件以上のポリオ発生・125カ国以上のポリオ流行国だったのが
2013年9月にはポリオ流行国は3ヶ国・250例にそして現在は更に縮小しています。

ポリオ撲滅にはロータリークラブやビルゲイツ財団をはじめ、ユニセフ、その他ライオンズクラブなど団体が協力した成果だと思えます。

当協会のポリオ撲滅運動もその一助となったことは事実です。



★1985年★ 350,000件以上のポリオ発生 125カ国以上のポリオ流行国



★2013年9月★ ポリオ流行国 3ヶ国 250例

ゲイツ財団と 協力して 寄付の効果を “3倍”に!

ロータリーとゲイツ財団は
ポリオ撲滅戦略計画を後押しするため
パートナーシップを拡大。
寄付に対するゲイツ財団からの上乗せの機会
を最大限に利用しましょう!

ポリオ情報はこちらから
 ① ENDPOLIONOW.ORG
 ご寄付はこちらから
 ② ROTARY.ORG/JA/CONTRIBUTE



「ロータリーはこれ
からも、ポリオ撲滅
活動の中心的存在
となります」
ビル・ゲイツ

「ポリオ撲滅活動の
失敗は、決して
許されません」
マーガレット・チャン、世
界保健機関 (WHO) 事
務局長

「歴史の教科書に
“ポリオ撲滅”の
言葉を刻むために
活動しています」
ボブ・スコット、国際ロ
ータリー・ポリオプラス
委員長

「私たちは、すべての
子どもたちをポリオ
から守る力があり
ます」
アンソニー・レイク、ユ
ニセフ事務局長

「世界のどこかで
ポリオの感染者が
出ること。これは
世界全体の脅威
です」
トーマス・フリーデン、
米国立疾病対策センター
所長

上乗せの仕組み

2013~2018年、ポリオ撲滅のためにロータリーがWHOとユニセフに寄せる寄付に対して、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団が2倍の額を上乗せします(上乗せの対象額は毎年3,500万米ドルまで)。たとえば、25ドルの寄付でどのようなことが可能になるでしょうか。

皆さまから
ご寄付
US\$25 + ゲイツ財団による
上乗せ
US\$50

合計寄付額
US\$75



または



または



150

ボランティア用
のベスト
予防接種活動の従事
者たそ一目で分かるよ
うに、ボランティアは
黄色のベストを着用し
ます。

75

ワクチンを運搬
するための容器
経口ポリオワクチン
の効果を保つには、
常に冷却保存する
必要があります。

600

予防接種を受けた
子を識別するペン
予防接種を受けた子を
識別するために、紫の
ペンで小指に印をつけ
ます。

撲滅まで 「あと少し」

野生ポリオウイルス常在国は
わずか**3カ国**



残るはあと

1%

ポリオ発症数はこれまでに99%減
少しましたが、撲滅活動が困難な
地域での予防接種を継続するに
は、力強い最後の一押しが必要と
されています。

子どもたちをポリオ
から守るために



世界中の善意がポリオの撲滅宣言に繋がりました。
1%の国は、紛争地域や宗教上の理由でワクチンの投与がまだできていない国です。
天然痘がこの世から撲滅したように、ポリオも平和になることで撲滅できます。
世界中のみなさんの善意が問題を解決していきます。

- ・ポリオは1980年に根絶された天然痘に次いで世界で根絶可能な感染症とされている。世界中がその根絶を願い、現在ポリオの根絶は最終段階を迎えている。ポリオ感染者数は1988年当時と比較して99%削減、ポリオ野生株の流行国はパキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアの3カ国に限定されている。
- ・世界中がポリオ根絶を願う中、パキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアという予防接種を打つことが難しいエリアでの、日本の活躍に世界が注目している。

日本は、ポリオの根絶を人類共通の公衆衛生上の地球規模課題として重視しており、ポリオ根絶に向けて大きな貢献をしてきた国の一つである。これまでの主な実績としては、以下のようなものが挙げられる。

1. 2000年に達成された西太平洋地域における根絶に大きく貢献した。
2. 2011年には、ゲイツ財団と連携し、パキスタンのポリオ対策にかかる約50億円の革新的円借款(ローン・コンバージョン)を実施。その結果、2011年には198件あったパキスタンでのポリオ発症数が、2012年には58件まで減少。2013年も9月時点で43件と低い水準を保っている。
3. 2.の革新的円借款を、ポリオ常在国であるナイジェリアにも適用することを検討している。
4. 2013年3月には、ナイジェリアに対してUNICEFを通じた無償資金協力をすることを約束した。
5. 2013年6月に開催された第5回アフリカ開発会議(TICAD V)においてアフリカの更なる発展のための支援を表明したことに基づき、本年8月、UNICEFを通じて、ソマリアにおけるポリオ感染拡大防止等に対する緊急対策のため、緊急無償資金協力を実施することに合意している。

世界的なポリオ根絶に向けた現状、2014～2015年

(IASR Vol. 36 p. 146: 2015年7月号)

1988年世界保健総会がポリオ根絶を決議して以来、野生株ポリオウイルス(WPV)の常在的な感染伝播はアフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンを除くすべての国で遮断されていた。2012年11月以来、3つのWPVのうち検出されているのは1型だけである。2012年、WHOは世界保健総会で、ポリオ根絶を「国際的な公衆衛生のための緊急プログラム」として宣言し、2014年にはWHOは残るポリオ常在国から非ポリオ常在国へのWPVの継続的、国際的な拡大を懸念し、国際保健規則に基づく「国際的に懸念される公衆の保健上の緊急事態」を宣言した。2014～2015年におけるポリオ根絶に向けた現状について要約する。

WPVによる急性弛緩性麻痺(AFP)の報告数の推移: 2014年WPV1によるAFPが359例(2013年は416例)報告されており、ポリオ常在国ではパキスタンで306例(2013年は93例)、アフガニスタンで28例(2013年は12例)と増加、一方ナイジェリアでは6例(2013年は56例)と減少していた。また、非ポリオ常在国への輸出例は19例(全報告数の5%)であった。

なお2015年5月の時点では、WPV1は23例(2014年の同期間では55例)が報告されており、1例はアフガニスタン、22例はパキスタンからの報告であった。WPV2の検出は1999年以降なく、WPV3の検出は2012年のナイジェリアの症例が最後であった。

予防接種活動: 経口生ポリオワクチン(OPV)の定期接種について、2013年の1歳までの乳児におけるOPV(3回)接種率は、アフガニスタン90%、ナイジェリア67%、パキスタン66%であった。

補足的ワクチン接種活動(SIAs)として、2014年は341回の活動において23億回分のOPVが投与された。

1. ポリオ根絶の意義

・ポリオ根絶は世界の最貧困層の子どもたちの生活改善につながる

ポリオ根絶によって死亡したり、重篤な障害(手足の麻痺)にかかったりする子どもをなくし、健康で社会的経済的活動に携わるチャンスを与えることができる。また、世界中の子どもたちにポリオワクチンを接種することは、子どもたちにその他の保健医療サービスを提供することにもつながる。つまり、ポリオ根絶は世界の最貧困層の子どもたちの生活改善のための大きな一歩となり、その意義は大きい。

2. ポリオ根絶運動の進捗・成果

・ポリオは1980年に根絶された天然痘に次いで世界で根絶可能な感染症とされ、現在、ポリオの根絶は最終段階を迎えている。ポリオ感染者数は1988年当時に比較して99%削減、ポリオ野生株の流行国はパキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアの3カ国に限定され、根絶は最終段階を迎えている。

1988年当時には年間35万人のポリオ患者が発生していたが、同年の第41回世界保健総会で、2000年までにポリオを根絶するという「世界ポリオ根絶イニシアティブ(Global Polio Eradication Initiative: GPEI)」が立ち上げられ、国際的取組が強化された結果、2000年には西太平洋地域で、2002年には欧州地域でポリオ根絶が宣言されるに至った。これによって、現在感染者数は1988年当時に比較して99%削減され、根絶は実現可能な目標として捉えられるようになった。

2011年1月以降、インドではポリオ野生株症例及びポリオウイルスが発見されておらず、インドは常在国を卒業した。現在では、ポリオ野生株の流行国はパキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアの3カ国に限定され、これらの国々におけるポリオ野生株症例は、2012年現在(2012年1-10月)の症例数(166症例)と比較して大幅に減少しており(99症例)、ポリオ根絶は最終段階を迎えている。特に、今年度は3種あるポリオウイルスのうちタイプ3によるポリオの発症は報告されていない。

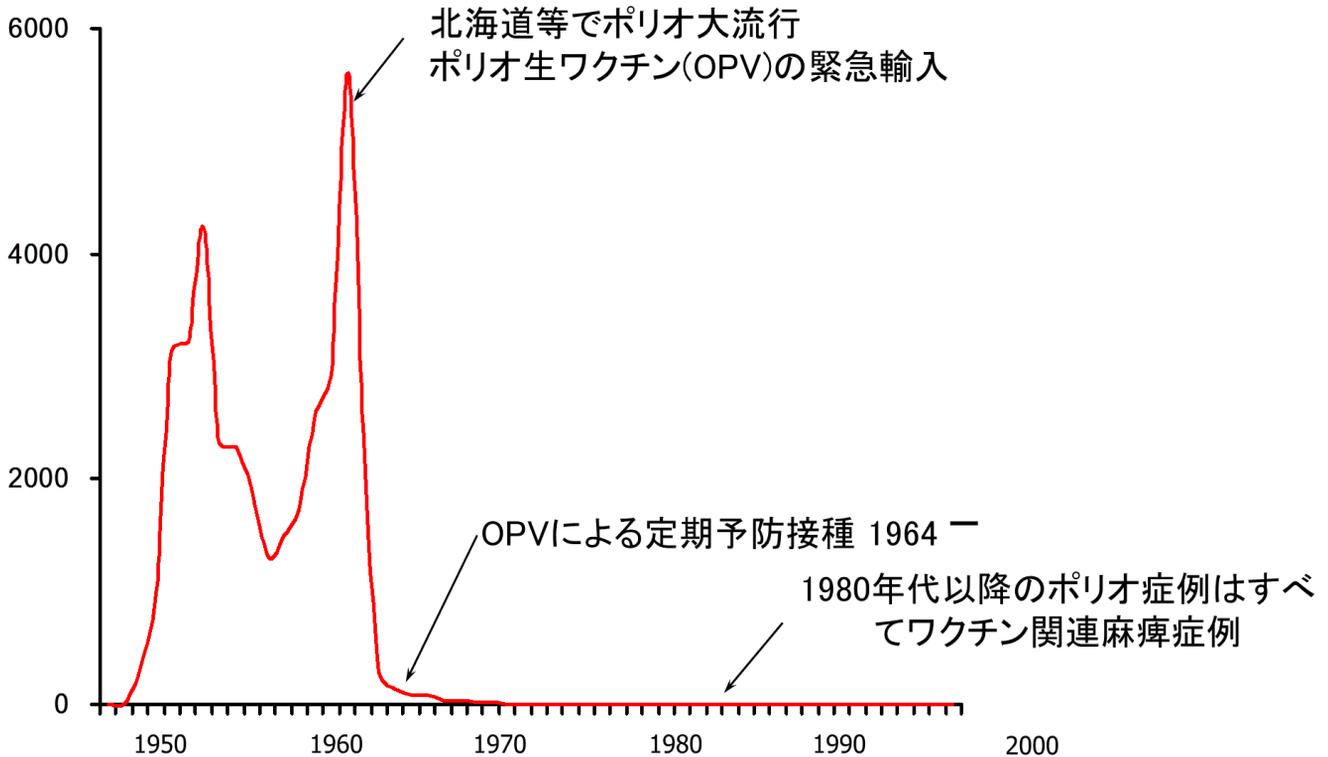
出典: GPEIホームページ

<http://www.polioeradication.org/Dataandmonitoring/Poliothisweek.aspx>

ウイルス根絶の条件

- ・ ウィルスが人と人との間のみで伝搬
- ・ ウィルスの変異がない
- ・ 有効で、接種が容易で、安価なワクチンの提供
- ・ 政治的安定（治安の保持）
- ・ 紛争地域の撲滅（平和な国創り）
- ・ 政官の積極的な関与
- ・ 衛生環境の改善
- ・ 貧困・経済格差の改善

日本のポリオ 患者数の推移：1947年 - 現在



ブータン王国 ブータンヘルス信託基金へ寄付



エコキャップ推進協会より
キャップの売却益の一部を、
ブータン王国政府が1998年5
月12日にジュネーブのWHO本
部の承認を受け正式に発足さ
せた、ブータン・ヘルス信託基
金に寄付することになりました。
ブータン・ヘルス信託基金
は、ブータン国民の初期医療
のサポートを重んじる大変素
晴らしい基金です。

～何故寄付先がブータン王国なのか？～

先の東日本大震災の義援金の額がその国のGDPに占める比率を換算した時に、ブータン王国は最も高い寄付を、他の諸外国に先立ち最も早く行なってくださいました。義援金の多寡にこだわるわけではありませんが、親日国であることの高さをうかがい知ることができます。私どもの寄付額も決して多いわけではないのかもしれませんが、キャップの売却益で社会貢献をしたいという思いと重なり、ブータン王国への寄付を決定いたしました。

今回の寄付は、発展途上国の大使館・領事館に直接アンケートをとり、その国で何を支援してもらいたいのか直接お話を伺い、寄付することになりました。